

マイバンクだからこそ、  
知りたいことがあります。

株式会社 千葉銀行

〒260-8720 千葉市中央区千葉港1-2 TEL.043-245-1111(代表)

<http://www.chibabank.co.jp/>



ちばぎん  
ミニ・ディスクロージャー誌

ちばぎんは、  
“ 選ばれる銀行 ” を目指し、  
お客さまとの結びつきを一層強め、  
お客さまからの厚いご期待・ご支持に  
お応えしてまいります。



いつもちばぎんをご利用いただき、  
ありがとうございます。  
この小冊子は、  
皆さまの当行に対するご理解を  
深めていただくため、  
平成13年度中間期の業績を中心  
に作成したものです。  
ぜひご一読いただき、  
一層のご愛顧を賜りますよう  
お願い申し上げます。

取締役頭取 早川 恒雄

ペイオフ	2
自己資本比率	3
貸出金・預金の動向	4
平成13年度中間期の業績	5
中間期の配当金	5
不良債権への対応	6
地域経済の発展のために	7
格付け	7
経営方針「A・C・T2003」	8
経営の合理化・効率化	9
個人・中小企業取引	10
新商品・サービス	11
ITへの取り組み	12
連結決算	13

## ペイオフについて

ペイオフとは、金融機関の経営が立ち行かなくなった場合、その金融機関に代わって預金保険機構が預金保険により預金者一人当たり元本1,000万円までとその利息を払い戻す制度で、平成14年4月から実施される予定です。ただし、決済性預金（当座預金、普通預金等）は、さらに1年後の平成15年3月まで全額保護されます。

預金保険は、1人の預金者が普通預金と定期預金など複数の預金をしている場合や、同じ金融機関の複数の支店に預金している場合、「名寄せ」という方法により同じ金融機関に預けているすべての預金を合計した金額に対して適用されます。また、金融機関から借入金がある場合は、一定の条件の下で金融機関に通知することで、預金と借入金を相殺することができます。なお、1,000万円を超える預金元本とその利息は、当該金融機関が整理される段階で弁済が見込まれる額を考慮し払い戻されることになります。

ちばぎんは、次ページ以降に記載のとおり、自己資本比率、格付け、業績などからみましても、お客さまにご安心してお取引いただける金融機関と考えています。今後とも、収益力の向上、資産の健全化、合理化・効率化に努めてまいりますほか、経営内容についても皆さまにさまざまな方法で適時的確にお知らせしてまいります。

保護の範囲

		平成14年 3月末まで	平成14年4月 - 平成15年3月末	平成15年 4月以降
預金保険 制度の 対象預金	決済性預金 (普通預金 当座預金 別段預金)	全額 保護	元本1千万円までと その利息等を保護	
	決済性預金以外 の預金等 (定期預金、 貯蓄預金等)			
預金保険制度の 対象外の預金 (外貨預金、譲渡性預金等)				保護対象外

## 自己資本比率について

自己資本比率は、金融機関の健全性を示すものとして最も広く用いられている指標です。

自己資本比率が一定水準以下になった金融機関は、監督官庁から指導や処分を受けることになります。海外に支店を置いている銀行は、自己資本比率を国際統一基準である8%以上にすることがもとめられます。

平成13年9月末のちばぎんの自己資本比率は10.18%、またちばぎんグループ連結で10.31%となり、引き続き国際統一基準の8%を十分に満たしています。

なお、自己資本比率については、次の算出・チェックの段階を経ることで比率の正確性・客観性を確保しています。

### 自己資本比率の算出

貸出金・有価証券・動産・不動産等当行が保有するすべての資産について、関係法令等に基づき予め定めた自己査定基準に従って年2回自己査定を実施しています。なお、価値の低下した資産については、同じく関係法令等に基づいて定めている償却・引当基準に従って必要な損失額を計算し、その結果をもとに自己資本比率を算出しています。

### 自己資本比率のチェック

自己資本比率算出の前提となる自己査定や損失処理につきましては、各期毎に営業関連部門から独立した監査部資産監査室による内部監査に加え、監査法人による外部監査を受けています。これらにより、比率の正確性と客観性を確保しています。

## 貸出金・預金の動向について

ちばぎんは、景気低迷の長期化により資金需要が引き続き冷え込むなか、住宅ローンをはじめさまざまな金融商品を積極的にご提供してまいりました結果、平成13年9月末の貸出金残高は同年3月末比1,120億円増加し、5兆7,095億円となりました。

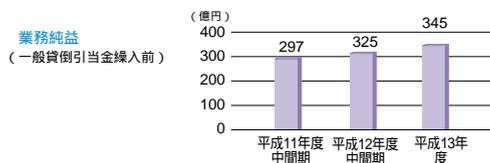
また、同年9月末の預金残高は、家計に密着した営業活動を積極的に展開し個人のお客さまからの預金が順調に増加いたしましたため、同年3月末比1,370億円増加し、6兆9,297億円となりました。このようにちばぎんは、地域のお客さまから厚い信頼をいただいています。



## 平成13年度中間期の業績について

ちばぎんは、資金の効率的な運用・調達や、経営全般にわたる合理化などにより経費を圧縮し、収益力の強化を図りました。預金・貸出など銀行本来の業務から生まれる利益(業務純益)は、一般貸倒引当金繰入前で345億86百万円となりました。

また、資産の健全性を確保するために、資産の自己査定に基づいて、貸倒引当金の計上や償却を厳格に実施いたしましたほか、有価証券の減損処理につきましては、期末時価が簿価に対し50%以上下落した銘柄全てと、30~50%下落し株価回復の可能性がないと判断される銘柄について実施いたしました。このような厳正な対応をとりました結果、経常利益は76億48百万円、中間純利益は43億2百万円となりました。



### 用語解説

- 業務純益 預金・貸出など銀行の基本的な業務の成果を示す銀行固有の利益指標
- 経常利益 業務純益に、株式の売却損益・償却および不良債権処理に要した費用などを加減したもの
- 中間純利益 銀行が中間決算期間中に得た純利益で、経常利益から税金等を差し引いたもの

## 中間期の配当金について

ちばぎんは、平成13年度中間期に1株当たり2円50銭の中間配当を実施いたしました。

健全な経営を維持していくため、内部留保の一層の充実を図るとともに、安定した配当を実施し、株主の皆さまのご支援にお応えしてまいります。

## 不良債権への対応について

ちばぎんは、半期ごとに、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」(金融再生法)第7条に基づいて、お取引先の財政状態や経営成績などをもとに対象となる資産を査定し、以下の区分で開示しています。

ちばぎんでは、資産の自己査定に基づいて償却・引当を厳格に実施いたしますとともに、審査体制や信用リスク管理体制をより充実させるなど不良債権の発生防止に努め、資産の健全性を一層向上させています。

なお、平成13年9月末の金融再生法に基づく資産査定額の中で正常債権以外の債権の合計額4,384億円のうち、85.9%が担保や保証、貸倒引当金によってカバーされており、現時点では十分な保全内容となっています。

金融再生法第7条に基づく資産査定額

(単位：億円)

	平成13年3月末	平成13年9月末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	1,836	1,826
危険債権	1,483	1,342
要管理債権	1,207	1,214
合計	4,526	4,384
正常債権	53,465	54,593

### 破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権

### 危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権

### 要管理債権

「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」を除く3か月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権

### 正常債権

債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外のものに区分される債権

### 用語解説

## 地域経済の発展のために

ちばぎんは、不良債権の処理を進める一方で、財務面で一時的に困難な状況にあります企業に対する支援強化も、地域経済・社会の持続的発展のための重要な責務と認識し、積極的に取り組んでいます。

平成13年10月、こうした企業に対する支援を専門に行う部署として「審査二部」を新設いたしました。

ちばぎんではさまざまな方法を通じて、地域企業の再生・成長、ひいては地域経済の発展に向け、力を注いでまいります。

## 格付けについて

格付けとは、第三者である格付け機関が、対象となる銀行の預金・社債などが安全に払い戻されるかを評価し、A、B、Cといった記号でランク付けしたものです。

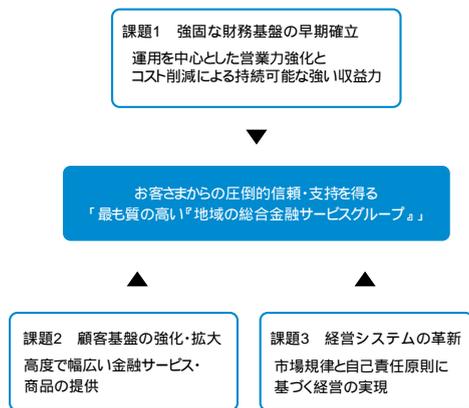
ちばぎんは、(株)格付投資情報センターから、長期優先債務について「A+」(預金等の元利金の支払の確実性は高い)という上位の格付けを得ています。

## 経営方針「<sup>アクト</sup>A・C・T2003」について

ちばぎんでは、平成15年3月までを計画期間とした中期経営計画「A・C・T(アクト)2003」を推進しているところです。

「A・C・T2003」は、お客さまからの圧倒的信頼・支持を得る「最も質の高い」地域の総合金融サービスグループ」を経営方針としています。これを達成するため、お客さまからの信頼をゆるぎないものとするための「強固な財務基盤の早期確立」、これまで培ってきたお客さまとのつながり(顧客基盤)を強化するための「顧客基盤の強化・拡大」、市場規律と自己責任原則に基づく透明性の高い経営を実現するための「経営システムの革新」という3つの課題を掲げ、目標達成に向け全役職員が力を合わせて諸施策に取り組んでいます。

中期経営計画「A・C・T2003」

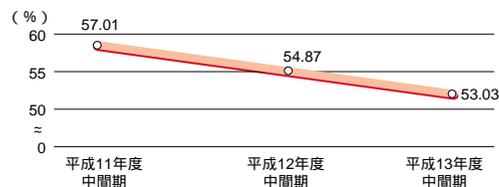


## 経営の合理化・効率化について

ちばぎんは、平成13年10月から順次導入を進めている新営業店システム、融資管理システム等により、正確・迅速な事務処理や事務のペーパーレス化を行っています。その他、事務の集中処理などによる合理化・効率化、徹底した経費削減を進めており、平成13年度中間期の経費は、中期経営計画「A・C・T2003」がスタートする直前の11年度中間期と比べますと、25億円減少しました。

この結果、銀行経営の効率性を示す指標である「OHR」は53.03%と、前年度中間期に比べ1.83ポイント改善し、引き続き地銀トップクラスの水準にあります。

OHRの推移



用語解説

OHR(オーバー・ヘッド・レシオ)

「経費」÷「業務粗利益(一般の事業会社では売上高総利益に相当)」で算出したもので、数値が低いほど高い効率性・生産性を有する。

## 個人・中小企業取引について

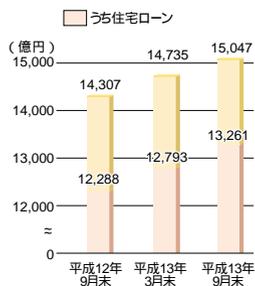
ちばぎんは、地域の個人や中小企業のお客さまとの取引には特に力を入れています。

個人のお客さまには、暮らしのメインバンクとして、給与振込や年金受取口座をはじめ、投資信託や外貨預金などの各種運用商品、損害保険商品、さらには幅広いニーズにお応えした住宅ローンをはじめとする各種ローンをご利用いただいています。また、土日祝日にも住宅ローンをはじめ各種ローンに関するご相談やお申込みができる「柏ローンプラザ」「幕張ローンプラザ」を開設しています。

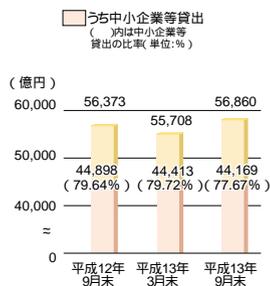
中小企業のお客さまには、無担保で3営業日以内に融資可否の回答が可能なビジネスローンのご提供をはじめ、皆さまのさまざまな資金ニーズにお応えしていくことを心がけています。

また、ベンチャー型企業向けのローンの創設や、ベンチャー型企業に投資する投資事業組合の組成を行うなど、県内経済の活性化につながるベンチャー型企業の育成にも積極的に取り組んでいます。

個人ローン残高の推移



国内貸出金における中小企業等貸出の推移



## 新商品・サービスについて

ちばぎんでは、引き続き新商品・サービスの拡大を進めています。

平成13年4月から、「住宅ローン関連の長期火災保険」「住宅ローン関連の債務返済支援保険」「海外旅行傷害保険」の販売を開始いたしました。外貨預金では3か月の据置期間経過後は満期扱いで解約できる「自由満期型外貨定期預金『フリーエンド』」を、投資信託は「ライフサイクル型ファンド」など2銘柄を追加いたしました。ローン商品では、幅広いお客さまに簡単な手続きでご利用いただける「ちばぎんカードローン『クイックパワー』」の取扱いを開始いたしました。新しい年金制度である「確定拠出年金」(いわゆる日本版401K)に関する情報提供、支援サービスも行っています。

店舗網につきましては、コンビニATM「E-net」の設置店舗(ファミリーマートなど)の拡大が進んでいます。また、平成14年2月からは、アイワイバンク銀行と提携し、セブン・イレブンなどに設置されたATMでもちばぎんのキャッシュカードがご利用いただけるようになる予定で、お客さまの利便性は一段と向上します。

## ITへの取り組みについて

ちばぎんは、IT(情報技術)関連のサービス拡大に積極的に取り組んでいます。

平成13年4月から、テレフォンバンキング、モバイルバンキング、インターネットバンキングを統合した新しいダイレクトバンキングサービス「ちばぎんマイアクセス」の取扱いを行っています。お客さまの電話やiモード携帯電話、インターネット接続パソコンが、お客さま専用の窓口となります。

新しいサービスとして、個人のお客さま向けには、ちばぎんホームページ上の住宅ポータルサイト「住まい@ちばぎん」を開設し、住宅ローンに関するさまざまなサービスを提供しています。また法人のお客さま向けには、平成13年11月から、従来の専用端末機等を使ったEBサービスに加え、インターネットパソコンをそのままご利用いただける新しいタイプのサービス「ちばぎんインターネットEBサービス<Web-EB>」の取扱いを開始いたしました。このほかにも、海外旅行傷害保険のインターネット販売の開始など、ダイレクトバンキングの拡大に努めています。

このようなちばぎんの“e-ビジネスモデル”の構築は、平成13年2月に設置した「IPS事業部」が中心となって取り組んでいます。引き続きネット上でも、お客さまのさまざまなニーズに的確にお応えできますよう、さらなるサービスの向上に努めてまいります。

## 連結決算について

ちばぎんグループでは、預金・貸出など銀行で取り扱っている金融サービスのほかにも、グループ各社が連携して、証券業務やクレジットカード業務など、皆さまの経済活動を支えるさまざまなサービスの提供を行っています。

平成13年6月、ちばぎんグループ各社に分散している経理総務関連業務を集中し、各社業務の効率化を図るため「ちばぎんアカウンティングサービス株式会社」を設立し、また同年10月、債権の管理回収に係る人材、ノウハウ、システム等の集中化により効率的な債権管理回収体制を構築するため「ちば債権回収株式会社」を設立しました。

グループ各社がそれぞれ、営業成績の向上や合理化・効率化に取り組んでまいりました結果、グループ連結経常利益は106億26百万円、連結中間純利益は59億38百万円となりました。

